

生活改良普及員から見た尾鷲開拓の歴史

川端美智子さん（元三重県職員＜生活改良普及員＞）

令和3年11月29日

尾鷲市・山帰来（さんきらい）にて

まとめ：山田 康平

安田 直矢



川端美智子（かわばた みちこ）さん

昭和16年、尾鷲市生まれ。大学卒業後、栄養士として三重大学病院に約2年勤めた後、生活改良普及員の国家資格を取得し、昭和38年に尾鷲農業改良普及所に勤務。42歳の時に熊野農業改良普及所に異動し、早期退職する55歳まで勤めた。退職後は、熊野古道馬越峠の登り口で山の喫茶・アルベルゲ（宿）「山帰来」を営んでいる。

尾鷲・熊野の農業改良普及所

昭和38年に生活改良普及員という国家資格を取りました。終戦後の食糧増産のために農業改良普及事業ができたんですよ。それでお米作ったり。私たちは農家の衣食住の暮らしの部分を改善していくっていう（仕事）。古い封建的な家族の形態っていうのが昔ありましたよね。そういうのとか、住まいとか、食べることとか、そういうのを改善するということです。農業改良普及員と生活改良普及員の二本の柱で農業改良普及所は始まったんです。法令は昭和23年にできた。

農業改良普及所は尾鷲と熊野にありました。当時はまだ矢ノ川（やのこ）峠をバスで通ったり、船で熊野へ行ったりという時代です。列車は昭和34年に開通したんですが、その前の方たちの話を聞くと、津なんかへ出張して帰ってくると尾鷲駅から船乗るのにみな駆け足で。熊野へ行くのは矢ノ川を越えるより船の方が多かったんじゃないのかな。だから、県から出張でみえる人は尾鷲で1泊して、昔からあった「広島屋」っていう旅館によく泊まられて、それで夜はロマン座で映画を見てとかね。そんなふうに過ごされたという話を大先輩の人たちが

らよく聞いた。

生活改良普及員の仕事

私はもともと栄養士でスタートして、三重大の大学病院の栄養士を2年近くしてたんです。普及員っていうのは学生時から興味持ってたもんですから、途中から試験を受け直して。中級でないと県は正職で取らないもんで。大学病院の時も一応正職でやったんですが、2年目にまた受け直して中級職で普及員になった。たまたまこっち側（尾鷲）で欠員が出たもんですから、私の地元へ。もともと尾鷲産ですので（笑）。

それからはずっとこのエリアです。それは幸いというか。尾鷲と最後55歳でやめるまでの13年間は熊野のほうの担当。職制もあり、生活の課長ということ。5年早く退職したんです。人事異動や体のこととかいろいろあって退職したんです。

最初は尾鷲開拓とか紀北町の古里とか中心に、尾鷲の向井とかかなり仕事で最初入りましたね。普及事業のやり方っていうのはいろいろありまして、ある程度濃密的に成果を上げていくような濃密地域を設定して、あとは移管活動っていう感じだったんです。

濃密地域は何年間か指定してって感じですよ。今の人とは全然仕事の内容が違うんですよ、生活改良普及員ってのは。そこの地域がどんな地域なのか、衣食住から環境からすべてを足しげく歩いて聞き取って、地域の現状を把握して、その中で何が問題か課題として取り上げて、それを改善していくための普及活動です。農業の方は、農業の食糧増産とかそういうふうな感じで専門職種が違うね。最初からみかんとかあったよね。

尾鷲開拓の歴史

尾鷲開拓には（農業改良普及員として）家崎敬一さんが主に入っていた。私が入った時の農業の普及員の方は全員お亡くなりになって。

全国いろんなところで開拓事業があったんですよ。尾鷲開拓は正式な事業名はわかりませんが、開拓事業で天狗倉山を開墾して。開墾してるときはまだ私はいないんです。開墾が終わって、生活する人たちは家もあって、38軒ぐらいあったんじゃないですかね。昭和32年ぐらいに土地の買収を終えて。入植者住宅の棟上げ式は34年。37年、尾鷲神社で農業改善対策協議会を組織する。私が38年に行くようになった。天狗倉山っていうのは花崗岩の石がごろごろしてるでしょ。石畳みが残っている。大岩もあつたりしている。

尾鷲開拓の苦勞

開拓事業はずいぶん苦勞なさったんでしょね。途中でモノレールとか引かれたでしょ。モノレールなんかもすっといかないわけですよ。みかん園がずっと上にあって。モノレールが大岩で妨げられる。上りはいいけど下りは生きた心地がしない。飛んでしまうぐらいに重い。下りはスピードもね。大岩があって、もう生きた心地がしなかった。飲料水とかの関係で水源を保健所の保健士さんと一緒に見せてもらいに行った。モノレールで大けがしている人いっぱいいるんです。ここだけじゃないです。三野瀬の古里でもご夫婦で飛ばされて大けがなさって。どこでもそうですね。農業関係のそういう被害というかけがはいっぱいあります。今はそんなになくて。そのあといわゆる農道が整備されて、軽トラックで行けるようになったんですよ。

私らは生活関係の仕事で一回ぐらいモノレールに乗ったけど、農業の人はもっと乗ってたね。ほんとはあんまり人を乗していったらダメ。だけど人力で歩くのは結構大変。農家の人たちはみんな乗ってるんですよ。ご夫婦でね。ほんとは私たちみたいな立場の人はどうなんかわかりませんが、そのときは乗せてもらって行きました。モノレールをつくる時もそうとう大変な工事だったでしょね。事業（農業構造改善事業）で引いているんやと思います。

結局35年に入植者の人たちがだいたい入ったわけ。40人分の開拓地を用意したけど脱落者もいて、平山（厚）さんとこのように脱落者の方の面積をプラスしてたくさん持っている。そういう人が何人かいるんですよ。それで31人になった。

脱落していった方は、開拓の頃でしょ。私が入った時、38人ぐらいで記憶してたんやけど、その入植者っていうのは地元の人割合としてはどのくらいなんやろう。遠いところは四国とかそんなところから入植してきたんですよ。志摩の方とかね。それで、早かったですね、事業するのがね。かなりご年配でしたけど。

入植者集めるときに、大々的に全国に宣伝したんですかね。全国に開拓事業があったから、岩手とかそのあたりは有名で、いろいろ映画とかTVなんかでもよくでてきますけど。北海道（の開拓）は明治の話なんですけど、そのあと昭和になってから結構募集した。

開墾するまでは農林事務所の管轄の仕事ですね。職員でみかんを植えて、みかんをどんなん植えよっかとかっていうのは普及の関係で、コラボしてずいぶんいろいろなさった。

尾鷲開拓時代の仕事

私たちの仕事は入植者の生活、暮らしの部分。結局おうちは建ててもらって

たんですが、そんなにいい環境じゃないですからね。それと一番の問題は水。いわゆる上水道とかがないですから、谷水ひいてましたよね。谷水ひくと砂がいっぱい入ってくる。パイプから台所の蛇口ひねったら、砂も一緒にくる。ご飯炊いてもじゃぼじゃぼと砂が入っていく。

水に関しては、今もお寺さんあるでしょ、その一帯を比叡山の延暦寺のかな、別院みたいなをつくるという話があって、そうしたら上水道をひくだろうという期待があった。下に中井（勤）さんっていうおうちがあるんですが、そのあたりまでは上水道はきてるんですよ。その上は上水道きてないと思います。

山口（起世）さんのところがあるかないかぐらいです。上の方は上水道がほしいっていうか、水をみんなで要望しようとかね、何回も組合の男の人と一緒に話し合いをしてた。だけど私のところまではきてるからって、結局みんなのものになりにくいわけよね。もう上水道がきてる人ときてない人の差があります。ずっと皆さんの悲願だったんですが、結局比叡山の別院もできなかった。上水道もひかれなかったということですね。

（私たちの仕事は）水から生活の基本ですよ。食事のバランスとかね。実際に生活の豊かな人はほんの一部の方だけで、他の人たちは生活に困ってましたから。こんなお野菜とかどんなふうにして食べたらいいんやろうとか、料理するのも、例えばホウレンソウも赤い根っこの部分は今捨てますけど、その辺もどういうふうに料理すればおいしくなるのっていう、一つの例えですけどそういうふうなことも言うぐらいに生活に困っていた方もいましたね。

生活そのものが苦しいから、その辺に生えてる山野草をはじめとして、皆さんね、お野菜作ったり、それから養鶏を副業でやったんですよ。その卵を町へ売りに行く人もいて。自家用に卵の栄養はすごくいいですから、ようけやりましたね。何軒かね。あとはお野菜とか、山菜とか、そういうものをどうしておいしく食べるかっていうのをみんなで勉強会したり、料理作ったりね。私生活改善の普及員ですから、暮らしの部分についてっていうことでそういう仕事をやったんです。

尾鷲開拓と動物

ニワトリ飼ったほうがいいよっていうのはね、その人たちの知恵。誰から始めたんでしょうね。それはわかりませんが、イノシシ飼ってた人もおる。イノブタかな。ニワトリは何軒か飼ってて、（卵を）売りに行っていた。イノブタってのはイノシシとまた掛け合わせるのかな。食料か、売ってたのかな。今はあんまりイノブタって聞かないよね。

開拓当時あんまりサルの話はなかった気がするね。サルということでの仕事の話はなかったです。やっぱ増えてきとるんやろね。やっぱり美味しいデコポンと

か作り始めたでかな。うちもそこに今も甘夏がなっていて、アルベルゲの前にも3、4本ね、温州みかんあったの。やけどね、サルが屋根から飛んで、もうホントにあれですもんで、全部切ってしまったんです。温州みかんを。玄関の前にもホントの夏みかんがあったんです。酸っぱい、いわゆる甘夏の前のやつね。で、それは食べていけないんだけど、甘夏は今でも遅がけまでならしてると取ってきます。私は木なりのまんまで置いとくんですけど。その方が美味しいですけどね。

尾鷲開拓は貯蔵して酸を抜いて、そして出荷してますよね。今でもそうなんですよね。おんなじことやってる。

漁業と林業のまち

開拓する前は、温州はあんまり作ってないです。やっぱりもともと漁業、林業のまちですからね。農地が無いからなおのこと。だから、農地が無くてこのような斜面のところを開拓した。農地が無いので、開拓事業で始めて進めてみようかと。

アルバイトと組合分裂

現金収入がほしいですからね。それであっちこっち土建業者さんとかも含めてトラックの運転手さんもいたんじゃないかな。そうすると、専門的にがんばってる人とアルバイトをしている人たちとの間で製品に差ができて、それで一緒にできないという感じで分かれて、(組合から離れた人たちは)国道のところを選果場を持ったんです。そういう人たちもいたんです。あれは10軒ぐらいいかな。差ができたんじゃないですかね、糖度とか測って出荷しますから。他に仕事に行って、兼業をするから、どうしても手(間)があれだし。それが大きいでしょうね。分かれるときずいぶん熾烈なあれがあったと思いますよ。

分かれたりでめっちゃ仲悪かったけど、奥さんたちはそれではダメだということで、開拓農協婦人部っていう組織をつくって、それで生活のことを中心にして、食事を作ったり、お料理のことを勉強したり、生活部分では1本で。年配の人は年配だったですけど、助け合いは大事ですから。

紀北地域のみかん農家

三野瀬の方は暖かいし霜はぜんぜん降りない。古里とか道瀬などのあたりは温州みかんは早かったんですよね。昭和38年頃、あのあたりも濃密地域みたいにして行っていたんです。そのときも温州みかと養鶏の複合経営でした。みかんだけでは食べていけないし。鶏糞をもっとちゃんと利用できるようにしたのはもっと後やろ。畑にもやってたとは思いますが。いわゆるそれによる公害的なも

の、臭いだけでなくハエとかね、そういう環境的な問題もありますよね。だから、みかんと養鶏の複合経営でも生活が上手くいかないし、養鶏が公害問題を生み出してきて周りがうるさくなってきて、それで民宿に変わってきたんです。今は民宿8軒かそれぐらいですが、私がいた当時は14、15軒の養鶏農家がほとんど民宿に変わりましたから。みかんと民宿ね。尾鷲開拓の場合はぜんぜんそんなふうに変わらなくて、みかんでしょこっとニワトリを飼うぐらいだった。

向井地区の開拓

向井地区にも開拓が5軒ばかりあったんです。集まるときは一緒にこっち側(天満)の集会所に来てもらって、話し合いとか講習会したり。あそこは早くに離農していく人が多くて、結局まったくなくなってしまう。今は農地が荒れてたりするけど、地元の人でブルーベリーを作ったりしている。

生活普及員の移動手段

昭和38年くらいはまだまだ道もぜんぜん整備されていなかった。開拓道路は4トントラックでみかんを運べるくらいの広さ。自転車かスクーターか単車(50ccのカブ)に乗って仕事をしていた。道が悪いですからスリップし何回単車を起こしたかわからないぐらい。

生活改良普及員は緑の自転車っていうのが、象徴するものだった。緑の自転車が各駅にだいたいあって。汽車で行くと、降りたら緑の自転車に乗り換えたり、歩いて行ったりしていました。車が配置されたのはその後、昭和40年ぐらい。車が配置されてすぐに免許を取りに行きましたよ。

今の若手職員へメッセージ

やっぱり、普及員は農家のところに行って、「あがったら」って言われたら遠慮せずにあがらしてもらって、冬ならこたつに入って、そこでいろんな話をして親しくなったら、心を割って話をしてくれる。そういうところで仲間づくりなどいろんなことをしてきた。やっぱり外に出ないとダメね。机の上で仕事しても書き物でいくらしても、やっぱり自分で行って、聞いて、教えてもらうとか、自分もなんかわかってることあったらお返ししたらいい。それがすごい大事で、最近はそのがどうもないなって感じて。やっぱり外出ないとダメやと言わせてもらってるんです。

尾鷲市における甘夏栽培の歴史

尾鷲市開拓農業協同組合 組合長 吉澤紀三郎さん

令和3年11月29日

尾鷲市開拓農業協同組合集会所にて

まとめ：糸魚川 学

吉澤紀三郎（よしざわ きさぶろう）さん

昭和18年、尾鷲市生まれ。親の本業は尾鷲でも大きな木工屋。

18歳の時に親の名前を借りて尾鷲開拓事業に参加。甘夏だけでは生活できないので、養鶏やアルバイト（土木業、漁業、林業）を副業に。28歳で結婚。平成30年から組合長を務める（3回目）。



開拓事業の始まり

開拓の事業は、もともと尾鷲市が地域の産業育成のために始めた事業やと思う。正確には、役所のほうで調べたら、昭和32年から始まったと言ったけどな。

私らは、昭和34年に開拓農業協同組合をつくりましたっていう定款を持つもんね。組合設立は34年で、ほいで潰れてかんと、62回の総会を開いとる。次回は63回目。

伊勢湾台風が来たとき（昭和34年）に、みかんの2年生の苗を植えとったもんでね。それで台風が来たときに全部っぺくらいひっくり返ったもんでね。両方からスコップを入れて、ごぼっと起こして直した記憶はある。私のところはまだ被害が少なかったけども、この斜面の上の畑なんかもうみんなべちゃーつと寝てたもんね。みかんの木ってのは若いほど弱いんさね。死ぬようなことはなかったけども。開拓事業が始まったのはその頃やね。

入植者募集

尾鷲市が入植者募集、今で言うたら開拓者募集をかけて、そのときの資格条件としては、現金を50万用意できる人、身体の丈夫な人、それで、20歳以上。私は18やったもんで、親の名前借りて入っとなさ。親は3日もここへ来たら共同作業がえらすぎるってことでバトンタッチして、18からここにおる。もともと

尾鷲にいたから尾鷲から出たことあらへんけど。生え抜きです。当時の 50 万って今で言うたら 1 千万くらいじゃないかな。

市が募集した当時の方針は、入植者総人口 50 人と記憶しとんやけども、50 人なんかよう集めなんだんさ。どうにかこうにか 30 人以上集まったと思う。追加募集が 2 年後ぐらいにあって、中井（勤）くんとか佐田（真治）くんなんかは二次募集で入ってきた人やでね。農業に意欲のある人ということで、多気町の佐奈から 6 名ぐらい来て。

尾鷲市としてはこの辺一带を 50ha から開拓したかったみたいやよ。そやけどこの辺は地形が悪いもんでね、50ha を確保できんと。土地として面積はあるんやけども、開拓地に向かないっていうのかな。向井地区にも 10ha あるんだけど、今みんな潰れとるもんでね。みかん作っていないけども。

ほいで、尾鷲市の方針としたら最初はみな共同作業ですね。共同作業の共同経営です。個人経営じゃなかったんです。最初、建前としたら。

開拓の苦労～石割り～

最初、木切りから始めて。ほとんど雑木山やったんさ、この辺。松があつたり、一部、ちっちゃいヒノキ山があつたり、立派な山じゃなかったんですよ。最初は、木切りを私らずつとして、ほしたらすぐ、尾鷲市がアメリカ製のブルドーザーを 2 台持ってきて。今でこそその辺にユンボ転がるとるけど、我々はジェット機見るようなもんで、本当珍しいもんで、尾鷲の町から見学者がおつたってぐらい。ブルのオペレーターも 2 人おつて。ほんで私らが木切った後にここに段々を築いてくれたんです。

やけど、段々つくっても石取ってくれへん。やもんで私ら、ブルドーザーの後から回って石積みをしていったんやけども。石無いところはそんなことやらんでええんやけども、今の畦地（季喜）さん近辺なんて石だらけでね。おつきい石なんて発破かけんならんし。コンプレッサー 2 台買うてきて、削岩機で穴開けて、ダイナマイト仕込んで、ぼんぼんいうて割ったつたり。1 日 150 個ぐらい割ったんじゃないかな。朝から昼まで 70 発とかつていうてね。それでも深い穴開けると進まんもんでね、でかい石でもちよびとしか空けんのさ。25cm から 30cm ぐらい。でかい石やと普通 3 分の 1 ぐらい開けんといかんみたい。1m の石やと 33cm ぐらいまでやらなあかんみたいやけど、私らできるだけ浅くして、ダイナマイトを余計に入れて。今は電気発破やけども、昔は導火線やったもんで、導火線に雷管仕込んで、その雷管が爆発して威力を増すのにニトログリセリンとかダイナマイトが入るとるだけで。私ら今でもできるで。

その頃、本職の割石屋さんだけでも 5、6 名いたもん。割石屋さんなんかは、ダイナマイトの扱いが上手いし、資格持ってるし。私ら無資格やけど、そういう

人らの言うとおりに手伝っただけで。また、積石屋さんも 2 組かおったんさ。「つきまい」って言いよったけども。専門の人らの真似して私らも覚えたんさ。

確かね、募集をした人を 4 班に割って、石積み専門班を 3 組ばか、私は機械班となったので、割るほう専門やったんよ。それ以外の人には石片付け班みたいな。1 班に組合員が 7 人、8 人おったんかいな。それに尾鷲市から、アルバイトだけでも、20 人、30 人っておったからね。私らだけでは手が足りんもんでね。おばちゃんの人が多かったけどな、たくましい。その人たちにようけ手伝ってもらったよ。石積みとか、石片付けとか。

個人経営に方針転換

せやけど、共同作業しよる中でぼけする人も出てきよるんさ。あの人おらんなーと思ったら、パチンコしよったりね。力が無かったり。気の短いのもおるし、長いのもおるんじゃけども。何かとろーいような人もいるし。せやから、入植者の中で、こんな共同作業だとどうもならんと。畑を各個人で持ってもらわんといかんということが全体の中で持ち上がって、三重県の方をお願いして、全部測量したんよ。全山を。ほいで、各人に番号ふって、30 なんぼまであったと思うんだけども。全部測量した中で、1 番の畑はこことここ、2 番の人はこっちとこっちみたい。地理的に優劣はあまりつけたくないんで、あんまり 1 か所にならんのだわい。

それで結局はくじ引くんやけども、ただその中で、小さい子がおるよっていうんで町に近いほうに場所を確保したいとか言う人もおったもんでね、その人たちはできるだけ尾鷲の町に近いほうに当たるように優先みたいなのもあったし、元地主ってのもおったんさ。船津（貫一）くんとこなんかは、みかん山始める時からわがとこの山やったもんでね。畦地さんなんかもそうやけど。元地主さんは自分とこの山を一回尾鷲市に買い上げられとるんやけども、また一緒のとこくださいよっていう部分もあったもんで、そういうのも優先的に分けたってくれというような格好で。一応くじ引いて、私は 3 番やったもんでね、3 番てどこやろうと思って地図見てみたら、橋のない（その手前までは道路がきている）一番端っこやって、一番不便なとこやなーって思ったけど。

それからは、一人ひとり自分の与えられたところで、畑をつるはしで打って、石抜いて、年がら年中つるはし振り回して、出てきた石を石垣にしてっという。そういうことばっかやっとなね。

甘夏の苗植え

尾鷲の開拓者からしたら、温州みかん植えるか、夏みかん植えるかって、2 つあったみたいやな。その当時、甘夏は 1 個作ったら 100 円になると。それに大き

いから手間かからんと。温州植えたい人もおったみたいやけど、どちらにするんかいうのは、私の知らんところで決めたみたい。結局、甘夏に決めたみたいですけども。苗そのものは九州の熊本から一括して来とるし、あの人はこれだ、この人はこれだじゃなしに、品種としては統一されとんのさ、ここは。温州植えたいって人も温州増やさなんだし。

この道入らんようなでかいトラックでどっさり苗を縛ったのを持ってきて、それをみんなで分け合いした記憶があって、尾鷲市が差配振ったんじゃないかな。尾鷲市の農林課の担当者が毎日のように来よったでね。内山（卓）さんっていう元市長の助役さんして後の市議会議員になった人なんかも、ちょうど新人の農林課の職員さんで。

肥料は、植える時に一律で炭酸カルシウムを、お国か県か知らんけど支給されとって、ぶち開けたんさ、袋ごと。ほんで段々作ったところにブルドーザーのレーキっていう、爪をちょっとギザギザのに付け替えて、ガサガサってかき混ぜてくれたんさ。土地改良っていうことで。そこまでは、尾鷲市が管轄してくれとったな。肥料なんてのはほとんど鶏糞とかさ。化学肥料なんかやった記憶無い。

それで、苗を植えた。苗植えた時も共同で植えたものもあるし、1人で植えたところもあるしっていう感じですね。

副業で生活を支える

ここは痩せ地やもんでね。みかんなんてのは、4年か5年ですぐ実がなるようになるっていうけど、ここは遅かったわい。数量もなかなか上がってこんし。そうしよるうちに、生活の苦労が出てくるんさ。持ってきた50万使い果たして、結局は山降りた人、脱落っていうのかな、結構おったん。

それで、皆さん鶏飼いだして、私も一時700羽ほど飼うとったからね、平飼いで。べちゃーっとした平場に小屋建てて、1つの小屋に120羽ぐらい入とったかな。私んとこ6つ持とったでね。鶏飼うとったのは5,6年やったかいな。一番遅くまで鶏飼いよったのは下岸（稔和）さんとかおったけども。

九鬼肥料が鶏の餌を扱って、餌の配達の際りに卵を回収してくれた。私は餌やととただけ。鶏飼うのやめて小屋取っ払ったところにはデコポンを植えた。

生活が苦しいもんで、皆さんほとんどアルバイトしよったよ。私は漁師しよって6年続けた。その間も土方したり、山師のアルバイトしたり。夜出てって朝帰ってくる船があるんさ。せやけど帰ってくると眠とうて仕事にならんさ。それでみんな副業ばっかが忙しくって、みかんの生産量が上がってこんのさ、この地域は。

私の場合、家内もらうちよつと前ぐらいまで貧乏しとったよ。28で嫁もうたで、10年以上は食えなんだ。それでもこの地域では売り上げはトップだったん

よ。土地に恵まれたとかね、いろんな環境に恵まれたんやけど、くじ運も良かった。

寒波を避けて早く収穫

その頃は冬になるとよう寒波が来よったんさ。標高が高いところの畑の人は「す上がり」でね。なんか軽いみかんやなって、採ったみかんを結構放ったもの。2月が一番冷えるから、正月から2月までにみかん採らんならんてことで、めったら慌てたもん。その記憶があるもんで、いまだに2月までにみかん採らなあかんて思うもの。私らは寒波の怖さが身に染みとるもんでね。向井（地区）はひどかったと思うよ。3,500 ケースのみかんを2,000 ケース放った年もあったでね。立ち入り検査するんさ、包丁持って各人の納屋行って。ほいで、「寒波受けたみかんどれー」って言ったら、「その辺積んどるのんがそうやわー」って。ほんで包丁で切って1つ2つ「す」が入とったら、「こんなん売れんのん」言うて。

そのみかんを一部、阿田和（注：御浜町志原）かどっかに昔あった農協のジュース工場に引き取ってもらった。1 ケース 200 円ばかりで放るとこ代わりって感じで引き取ってくれた。後から聞くと、農協の職員さんに絞ったジュースの割り当てがあったらしくて、皆さんよう売らんと、ほんで飲みきれんと。やもんで、出したら出したで責任感じるし、農協さんにも迷惑かかっているし、で売っても安いもんやから、畑に放ったるかいいみたいになってった。

ポリ袋に入れて、早う採るっていうのは、九州の田ノ浦の鶴田さん（注：宮崎隆典著『甘夏に恋して』主人公の鶴田源志さん）っていう人の指導です。苗木を持ってきたとこなんですよ。九州の田ノ浦の有名ブランドなんですよ、甘夏の。その組合長なんかな。この人が熱心な人で、こんな田舎まで来てくれて、今九州のほうではこのようにしとると。農協も教えてくれなんだでね。その人に教えてもらったようなもんです、どうしたらいいのって。それから私ら九州のほうに、2回3回って電車や飛行機で視察に行とんさ。市も入れんと、組合として。私ら独自に覚えたと思うよ、その鶴田さんの指導で。一生懸命教えてくれよったよ。その頃が一番よう行とったんさ、バタバタと。

農薬と肥料

後から思えば、役に立たんもん買わされたみたいなのもあったよ。大昔は、酸っぱいものが甘くなるからこれ使えみたいな、そういう業者もおったんさ。結構割高な物を2年3年と買わされて、別に使っていないみかんも変わらへんの一つて気が付くのに5年も6年もかかるとんさ。今はそんなん買うこともできへんし、そういう業者もおらんけども。昔はそんなんやったよね。

農薬は農協で買うとった。撒くやつは、最初は圧縮式の精いっぱい入っても150ぐらいの背負いでさ。それから今度は、1人がポンプ回してカッコンカッコンという液が出るやつがあったり。動噴（注：動力式噴霧器）はなかなか…、高いもんやし。3人で1台買って、仲間内で使うて。農薬はボルドー、合剤（注：石灰硫黄合剤）、マシンそんなもんやな。

私ら無頓着やもんで、バケツの中に手入れて農薬溶きよったんさ。そんだけ無茶苦茶やったわい。農薬の基準なんて低かったな。昔は青酸カリまであったらしいね。青酸燻蒸ってというのがあって、みかんの木をすっぽり覆って煙でもって虫を殺すっていう方法もあったみたいやね。それはしてないけども。

肥料は組合で統一せなあかんで、農業改良普及所のほうで肥料設計してもらて、全農や県のほうで全部やってもらおうと、家崎（敬一）さんという指導員さんがおって、熱心な人でね。尾鷲開拓独自の肥料設計してもらて、登録商標まで取った。それからずっと何十年もそればかりで。その肥料のおかげで尾鷲開拓は成り立つとるといえるんじゃないかな。今は鶏糞使ったたら販売店への出荷停止。持ってくるんだしたら、組合で決めた肥料を使ってください、ということになってます。コメリでもなかなか高いほうですね。20kg入りで2,500円ぐらいかな。ダントツっていうのもあるんさ。これ15kg入りなんやけど、1,500円ぐらいかな。

苦労した急斜面地での農作業

昔はみかん収穫するような袋も無いもんでな、アメリカのほうから持ってきた大豆入れた袋に入れてみんな担いで上げてきたんさ、道まで。若かったんやな。コースターも無いし。全部人力やったんや。鶏糞も全部自分で運んだし。一日中カモシカのように走ったんや。

地形が悪すぎるんさ、ここ。急傾斜地に段々作つとるやろ。機械入れて消毒したら楽とかいろいろ思うんやけども、足元悪いとこばかりの山やもんでね。楽できんな。消毒しようにも、機械が入ってかんし、もの運んだら、急なとこばかりか歩かなんし、傾斜に生えとる木やもんで作業が危ないし、結構滑ってこけんねやで。必ず1回はこけるもんね。草の上で滑ったり、土手のところで踏み外したりとかな。まだ石ころもどっさり落っこってるし。楽してみかんは採れんな。

摘果は皆さんしてくれよる、暇に飽かしてな。みかん畑の人はじつとしとらんのさ。暇になったら畑行ってな、小ちゃいみかん見たらちぎってな。これはもうみかん作りの病気みたいなもんで。長いことしよるとな、我が子みたいなもんでな、我が子が鼻垂れよったら、ふいたるみたいなもんでな。汚いみかんが上のほうになつたら登ってでも採りにいかな気が済まんもん。

高いとこのみかんの収穫は登っていくん。猿みたいだね。登らなんだら手届か

んもん。登ってって、下向いて枝に足かけといて、1個ずつ採って。私んとこの脚立はみんなロープついとるもんでね。みかんの木にロープ縛っとくんさ。そしたら絶対脚立はこけないんさ。そのようにして、1個ずつ採るんさ。もちろん下からも採るし、上からも登って採るし。

景気が良い時代

尾鷲のみかん売り出してからな、名古屋の丸協青果とか、そういうところでものすごく最賃されたんさ。昔は名古屋に4つ公設の中央市場があって、ほんで2か所に出しとったんさ。三重県内は三雲の市場に出しとる。その3か所ずっと出してたんやけども、名古屋の市場そのものがもう今2つしかないんさ、公設は。合併してしもて。そやもんで、私ら今、名古屋が1か所、三重県も1か所やもんでね、一応2か所出しとる。

何しろ市場も合併するというと、数量がやたら扱いが大きくなるやろ。尾鷲開拓のみかんなんか、ほんと鼻くそなんさ。あの市場に入った場合な、小さすぎて。ほんで、何千ケース単位で買うような業者が出入りしとるやろ。どんどん大きくなってくな、今は。スーパーも市場も農協さんも合併するやろ。でも、やっぱり縁が続いとるんだよな、案外最賃してくれて。一丁前の値段で買ってくれるし、決してたたかれるようなこともない。

平成元年までは作ったら売れる時代やった。その頃は、悪いながらも景気良かった。名古屋の丸協青果の前も、尾鷲のみかんが並ぶとなったら行列できたっていう。丸栄デパートの地下に食品売場があんねやけども、尾鷲のみかんが並ぶってなったら、丸栄デパートの食品売り場に列ができたって、丸栄デパートの従業員だった妹から聞いとんのさ。

その頃は市場の人間が尾鷲に来てなあ、ドンチャン騒ぎしちゃったよ。料亭さんみたいなどこ行って、泊まっていきよったでな。一晩中酒飲んでな。尾鷲のみかん何としてでも送ってくれって、引く手あまたで。1個100円やでな。私の記憶では、市の職員さんが300万ぐらいの年収の時に、皆さんみかんの売り上げで300万ぐらいあったでな。まあその300万あってもさ、農薬代や肥料代引いたら300万も残らへんけども、結構よかった。

組合の分裂

そうして景気の良いときに、この組合が分裂しとんさ。昭和の終わりだな。私ら今まで農協さん頼りで、農協が肥料も農薬も段ボールも全部斡旋してくれて、農協さんが建てた選果場を利用しよったんだけど、あるグループは、農協さんに何もかも頼りついたら、大きな金を農協さんに納め続けなあかんから、わがとこの選果場建てようやないかと。その頃、組合員は全員で26,7人おったんや

けど、10人ほどは選果場建てて出てったんさ。私ら出てけとは言わへんで。その当時、その10人だけでも7,000万ぐらい金使たん。選果場建てて、機械入れて。景気がまだ先もいいと思ったん。そのまま計画通りいったらよかったんやけども、それから、牛肉・オレンジの自由化、みかんの暴落で。

分裂してった人ってのは一介の農家になってくるもんでね、情報源が無いんさな。私ら全農とかついとるもんで、情報が早いんさ。ほいで、容器革命のときに、その別れた人たちがまだ15kg箱を使おうとしたもので、10kgのほうに変わってきたってわざわざ言いに行った記憶があるもん。けども古い段ボール余っとるから15kg箱使うんじゃって頑張ってたけど、この人らだいぶ遅れとるなあって私思たもん。

そういう時代の浮き沈みの中へはまり込んでって、今はその10人の人で残ってんのは1軒だけ。みんな辞めてしまった。ほんでその時10人で7,000万やったら1人700万円やろ。その700万をずっとみかんで背負ってきたんさ。みかんの販売で天引きされてきたんさ。悲惨ですよ。どんだけ経っても生活が成り立たんのさ、苦しすぎて。順調よーいったら計画通りにいくんやけども、世の中計画通りいかんもんで。

最近の状況

最近単価いいです。決してめっちゃめっちゃ高いもんじゃないんやけども。昔は、15kg箱で平均単価900円みたいなときもあったでな。平成の元年あたりは最低やったわい。その頃、オレンジと牛肉の自由化があったんだけども。何しろ年間売り上げトップでも250万やったからな。みかん作るのに200万以上かかるんさ。人件費と肥料代と農薬代で。その頃、辞めるに辞められないんだけど、あかん一って思いよったもの。

そんで、平成2年に、容器革命って言ったらあれやけど、10kg箱に変更になったんさ。そのときに15kg箱で出したら1,500円やのに、10kg箱で出しても1,500円なんさな。そんならみんな10kg箱にしようかみたいな。その辺のトラックはなんか知らんけども、決して高くないけど安定してきたんさ。それから一応ずっと安定してます。最近は、10kgで1,700円から1,800円ぐらいやな。去年なんかよかったで。2,000円に近かった、単価的に。尾鷲開拓のみかんは、その単価やったら上等じゃわい。

今年は出荷したのは5軒（吉澤さん、船津さん、中井さん、相賀（恵）さん、佐田さん）やったんさ。5軒以外の方は小売りしたり、インターネットで売ったりって聞いとる。松阪のほうに持ってったって話は聞いとるんやけども。

今後

78やで、わし。人生設計では73で辞めるんだって言ってたんだって。それまで頑張ろうっていう気持ちでしてきたんやけども、役を引き受けたってな、辞めれんようになってもうてな。皆辞めて寂しくなってく中でな、わし辞めたら連鎖反応起こさへんかってな。

わしら肩書は専門農協なんさ。日本一小さいんやけども。それやと役員だけで7名要るんさ、最低。理事が5名、監事さんがどうしても2名要るんさ。組合としてみかん売っとるのは5名しかおらんのに、役員は7名要るんやもん。それで正組合員が15名要るっていうもんでね。正組合員になれるのは、一応みかん山持ってる人で、年間90日やったかな。

今度もお手伝いっていうんかい、来てくれるんやけど、怪我されんように気を付けなあかんわい。この仕事はえらいでな、楽しんでもらったらええだけだな。来るほうとしたら、えらないと思うて来ると思うんさ。南紀にある温州みかんの木連想して来てもうたらわしらの木見てびっくりすると思うんさ。

みかんの木ってのは小さいと数量が上がらないんさ。私は雲に届くような木を作りたいもんで。でかい木を作ってどっさり採るっていう腹なんさ。味は大小関係ないと思うよ。安いみかんやもんでな、数で勝負しやな生きてかれへんのさ、ここ。

こだわりの甘夏 中井 勤さん（開拓農業協同組合員）

2021年11月30日

尾鷲市天満地区・開拓農業協同組合集会所にて

まとめ：松井 一朗

中井 勤（なかい つとむ）さん

昭和16年、多気町（佐奈）生まれ。昭和34年、18歳で尾鷲に入植。

19歳で結婚。入植後も24、5歳まで多気町の実家のみかんや柿、茶畑、田んぼの農作業を手伝いに通った。

土木業や漁業のアルバイトは60歳まで続けた。



多気町から入植

わしはもともと多気町へ住んどった。本職はわしのところは百姓じゃないんさ。おやじは左官屋で、おふくろは助産婦。おやじは左官しながらみかんとかやっあって、ちょっとずつちょっとずつ増やしとった。

入植で尾鷲に来たのは昭和34年、歳は18か。19でわしは結婚しよったんや。子は二十歳の子や。かか（妻）は尾鷲の人やない。わしは愛知県の津島におったんさ。自転車の部品をつくる工場におった。おっきな会社やで。500人はおって、女も多かったでな。そこで、知りおうて、こっち連れてきた。

若いころは悪いことばかりしよった。親もどうもならんって行って、戻って来いって。（入植は）父の勧めで、わしは来たなかったんやけど。入植の時は最初、多気町へ募集が来たんよ。そして、長男はあかんと、次男坊以下やけな、入植はできんという条件やった。最初おやじの名前できとって、わしが尾鷲へ来たんや。

多気町から来たんは7人。今は森田（一市）さんと、佐多（真治）さん、3人だけ。7人来て今3人しかおれへん。

（実家の田畑を）おやじとおふくろだけではようせんもんで、ずっとわしは多気へ行って、かかと二人でおやじの土地のみかんや柿てつどとったんや。手伝

いをしながら、米と金をもらってこっち来るんや。最初のころは、おやじから仕送りしてもうて。

行ったり来たりは大変やけど、そのかわり、三月も四月も向こう行とった。長い時は、冬はみかんして、田植え、茶もあるんや、いろいろしたで。24、5までしよったんじゃないん。子が大きくなってきたし、もうあっちにも行きたないもんで（行くのやめた）。兄貴は尾鷲の日通におったもんでな。日通を辞めた時にうちに帰ったんかいな。せやもんで、わしはもう行かんでいいようになったんさ。

開拓の作業

わしが多気町から来たんは、開拓しだしてから1年か2年遅れとるはずや。せやもんでおおかたできとったけど、木は植わっとれへん。

入ってからの作業は石積みかな。わしは発破の係はしとれへんさかい。石積みの手伝いばかりしよった。最初の折は逃げてばかりおったもんで。19でわけわからんしな。石屋さんのとこへ（石を）持って行って、石屋さんが積むんさ。多気町から来た人はおおかた石積みのほうじゃないんかな。来た時は発破もやってたけど、発破のほうはやってへんと思うけどな。

わしや桃山におったんさ。子ができたもんで、遠いもんで、生草に変わったんや。そのころ、みかんは植わってない。わしが佐奈へ手伝いに行とる間に、みかんの木はだいぶ植えてもらとったんかいな。その負担金も生草地区へはろた（払った）んや。おったらそんなことせんでいいんやけどな。向こうへ手伝いに行とるもんで。

甘夏やったんは国の指定園で、甘夏一本で産地を作ろうちゅうことで、政府のあれやったと思う。それが尾鷲市へ来たんや。国が甘夏をやれと。その時には熊本の甘夏がええ単価で売れよったんちゃうん。

育て方を教わったんは普及所からやと思うよ。指導してくれたんは、家崎敬一さん。家崎さんが九鬼肥料にする前は、尿素を1年か2年やとんさ。それから組合で統一するのに肥料つくったんや。九鬼肥料も最初は貨車（貨物列車）で来よったんやで。たいがいようけ来たで。

みかんの他は、漁師もしたし、土方もしたし。アルバイト。おおかた60までした。向井にある三洋建材でしよった。社長さんがようしてくれたもんで、みかん取りの時だけは半年休んで、半年アルバイトしよった。そのころ、みかんで食うていくのは反別少ないもんで大変やった。今な、6反、一番少ないと思う。

現在の甘夏づくりとそのこだわり

一番大変なのは収穫。コースター無いと大変やから、ロビン（コースターの会社）はもうないけど、ぼちぼち直しながら今も使う。使える間は油引いたりして、何十年にもなってくるよって、鉄も腐ってくる。

吉澤（紀三郎）さんは木に登って取ったりしとるが、わしらのみかんの木より3倍もある。わしらは木に登ってとかはない。脚立だけじゃな。ここの組合は指導員さんが教えてくれるけど、教えてくれる通りしとる人もおりや、自分勝手にしとる人もおるもんで、みかんの木は大きいものから小さいものまでみんな違うんさ。わしも教えてくれる通りにはあんまりやで我流や。

かかは65ぐらいからちょっと体悪くしとるもんで、わしはさせんの。それまでは二人でしよったが、それからみかんはひとつもしてないんさ。娘は船津におるもんで、収穫は毎日娘が来て、旦那も土日だけ来るんやけどな。採るのにだいぶかかる。2月いっぱいぐらいかかるな。

わしは、人夫さん雇ってもな。ぱっぱぱっぱ取ってもうたら困るんさ。雑に取ってもらおうと腐るやろ。せやもんで、わしはもう慌てんでええよって、丁寧に取ってくれって。

甘夏の味はな、市場からの要望なんさ。もう甘んもすんなど、せやけど酸いもすんなど。今の味が一番ええよってに、そのままで作れちゅうことでしよんのさ。今までのずっと何十年の歴史を、「尾鷲の甘夏」ちゅうてしとんもんで、これはもう変えたらあかんで。酸うかったら、ちょっと出荷を遅らすんさ。うまかったら、はよ出すし。余計な施肥はすんなど、酸うもすんなど、難しい。

栽培方法も変えてもええんやけど、今のまま組合で決められた肥料やって、消毒も決められたようにやって、組合としてやる限りはそれでもうやってかなしやーない。自分とこでやっとなる人は無農薬やったりしよるで、ええんやけど。前は農薬も肥料も農協全然通しとらんかったんや。組合が会社へ行ってこの肥料を作ってくれちゅうてしよったんさ。

甘夏作り出した最初は、木成りやったが、す上がり（水分のないパサパサの果実）が多いもんで、みんな追熟に変えた。今もまだ凍ったりするのはあるやろな。今もだめやったら、水に浸けやんならん。くるりと浮いて、傾いて真っすぐ浮けへん。持ってじゃ絶対分からんで、あれが一番検査ええけどな。選果場出て、また検査されて、あかなんだらみな返される。返されたらほったらなしやーない。中は半分ぐらいかすかすやもん。そんなん出したら単価、がたーと落ってく。選果場行って後から分かるんは、やっぱり10キロの箱へ入らんのさ（す上がりした果実は大きさの割に軽いため）。芯に穴が太いやつはよく間違うん（す上がりではなく果実の中心部が空洞のもの）。

雪降ったら、ほんとにひやひややで。面倒くさいけど、わしは、市場へ出すやつはちゃんとしたやつ出したいでな。そうしたときには単価もちょっと上がって出てくるで。

デコポン作り

デコポンを作ろうと思たんは、淡路から甘夏の糖度を上げるための肥料を榎本（栄一）さんから買いよったんさ。そして、あの人デコポンしだして、お前らもせんかちゅうことでしだした。

デコ（の穂木）を淡路から買って、最初は甘夏へ接いだ。甘夏へ接いだやつは酸いやつと甘いやつとあるもんで、市場であんまり単価が出やなんだ。せやもんでみんな切って、苗木に変えた。苗木は接ぎ木とは違う。うまい。

最初は、他の人も一緒やったんやけど、みんなもうやめて。わしはした以上はな、とことんしたいと思うでしよったんや。出荷したんはわしと吉澤さんと早稲田（勝治）さんの3人。本格的に反別をようけして、しとるんはわしと吉澤さんと早稲田さん。それで、3人でデコポン部ちゅうやつをつくったんさ。今のデコポン部は3人。最初はみんなおったんやけど、出荷になってからみんなやめた。最初は松阪の市場へ出しとったんや。そこは潰れたんか解散したんか、今VF（三重VF株式会社（卸売会社））に出しとるでな。

デコポンは結構手間くうて、経費いるけど、作つとる。お客さんおったら、作らなならん。甫母（熊野市甫母町）にいとこがおるもんで、送ってくれって言つて。そのつてのまたつてが、うまかったら私のとこも送ってくれっていうやろ。それでわしは送らんならん。

ほんとはデコポン2月ぐらいに取るんさな。せやけど、サルにやられるもんで、わしは1月1日からすぐ取る。

デコポンは、自分で売ったほうが得やちゅうて去年はもう（市場に）出さんようにした。わしは多気の国道沿いに弟がおるもんで、そこでもう売ってもらおかないなと思って、去年からしよる。多気の五桂池で弟の子が犬の散歩の（ドッグラン）をしだしたんで、まあ置いてみようということになった。大概、わしは尾鷲で売って、ちょっとは向こうへ持っていく。尾鷲はよう売れるんや。尾鷲は直売所、駅前古道亭に出しとる。

今年はどうか知らんけど、去年は売れた。今年はなつとらんいうよりカメムシにやられた。11月の終わりから12月までカラスとサルの競争。えらいものつくった、デコポン。どこから入るか知らんけど、まさか、サルにやられるとは思わんだ。デコだけきて甘夏くわん。匂いするでな、サルも知つとる。

これから

この12月に80になるで、もぐ（採る）のもえらい。みかん作りは、まあ、よう動けやんようになるまで。

これから、摘果の残りは正月初めから、正月一日^{ついたち}だけ休んで。休みは雨だけで今までずっとや。来年もひとがんばりせんならん。

尾鷲開拓当初の記録

船津貫一さん（開拓農業協同組合員）

2021年11月30日

尾鷲市天満地区・開拓農業協同組合集会所にて

まとめ：安田 直矢



船津貫一（ふなつ つらかず）さん

昭和18年、尾鷲市生まれ。

高校卒業後、試験場で勉強し、民間企業に就職せず、昭和37年に入植。父親と2人で甘夏を栽培してきた。開拓当初の写真を保存している。

最初の仕事は石割りと消毒

入植は途中からで、昭和37年。極温・寒波があった時です。それまでは、高校行って、試験場行って。（試験場は）紀南分場です。その時にちょうど寒波にあたって、卒業してすぐ入植ということ。試験場行つとるのに下手で笑われるんやけどな。

入植した時は、木が植わった状態です。仕事はみかんの木の消毒。アゲハの幼虫とエカキムシ。それと、自分で石割ったりはしていた。開拓でやったんでなく、自分とこの石を取るのに石を割りました。石屋さんがくさびで穴をあける。大きいのは1トンぐらいあったかな。大きなくさび3つぐらいで割るんです。今も道

具一式持ってますよ。ほいでダイナマイトで割って、上だけ飛んで穴あいてるのがあって、それ割る道具ははだしや言うて、2枚入れといて、真ん中に1枚入れてパカんと。それがあつたんやけど、真ん中を取られたんです。それで割ったらまだ石がコロコロしとるんです。

来た時には石だらけで、掘って深耕して。60cm ぐらい掘ったかな。それから、炭酸カルシウムとヨウリン。それが支給されたのかな。石抜いたり、根の周り掘ったりしてね。それは何年間かやりましたわ。2、3年やったんかな。

消毒はニコチンです。それでニコチン中毒になりまして。胃潰瘍をおこす。たぶんニコチンやろうということ。こっち(尾鷲)で胃が悪い、胃が悪い言うて、あっちの医者でも、こっちの医者でも診てもろても、悪ない言われて。その当時、胃のレントゲンカメラっていうんかな、松阪にできた時に、おばさんが行つとったもんで、連れていってもろたら、潰瘍おこしとるということで、1年程通いました。松阪の大道病院です。1番の汽車で行って、病院終わる頃は4時頃ですから。行くことは2ヵ月に1回行つとったんですかな。

それからニコチンでの消毒はやってました。前はマスクをすると暑いもんで、マスク外してかけとったんですわ。今の動噴みたいにワーっとはかけへんけど、手押しので。半自動のやつでシャーっとかけるだけ。1週間に1回か、10日に1回ぐらい。胃潰瘍以来、マスクをするようになりました。たぶん原因はニコチンだろうと言われた。当時は硫酸ニコチンです。

養鶏の副業

アルバイトは、ニワトリ飼ってたんですよ。鳥小屋作って。はじめは500～600羽でしたけど、増やして1,000ぐらいね。養鶏での生活はカツカツ。いっぱいいっぱいです。何とか、何とかです。

尾鷲養鶏組合ってのがありまして、養鶏組合が卵を集める。持って行きよつた。トレーってのがありまして、50個ぐらい入る。またその上に段々と積んでいく。自転車の後ろにくくり付けて行く。やっぱり割れなんだな。そんなにスピード出さへんで。

ニワトリは家でも飼うてたことあるんやけど、山に入ってから(入植してから)7、8年飼うてたんですかな。オイルショックでエサ代が上がり儲からないんでやめよかいうことでやめた。それからみかんで。

自分の園地を開拓

園地は、私のところは70a。だけど、10a 自分とこで開拓してたんです。70a くれるんかと思っていたら60a しかくれやんだんです。それで10a を開墾したろうと、開墾したんです。開墾した値段で払い下げしてきたんです。土地

造成費70a分払いました。10aは自分の手で開墾したのに。

山の神

吉澤（紀三郎）さんのお父さんは建具屋なんやけど、なんちゃら教の神官。開拓する時も山の神で起工式をしてもらった。

毎年11月7日に祭りをしていた。尾鷲神社の神主を頼むと高い。吉澤さんにまけてもらって。

共同防除

共同防除は農業構造改善事業やったかな。灌水防除、選果場っていう話があがったのは、みかんが10年生ぐらいになった時かな。最初の選果は早稲田さんとこの前で手でちょこっとのみかんを選別して出荷したことあるんやけど。その次は三野瀬農協の選果場借りて。2年程借りてやったんかな。そしたら構造改善事業始まったんかな。自分たちで選果場をした場合1人100万ぐらiyor。借金になるということでもめたことがある。組合が分かれようかというところまでいったんやけど。防除だけで止めて、選果場は持てんということで。灌水も台風が来たら塩害があるから、塩害を防除に水かけるってことで太いのを引いたもんですから。水やったらタダやけど、パイプに溜まった薬液はものすごいもので、2回だけかけて共同防除終わったんです。向井側は2年ばかやとったんやけど。これはパイプ太いうて、個人でかける2、3倍以上だったかな。多すぎて2回でやめた。新たに自分とこで配管して今に至る。配管は定期的に新しいものに替えた。選果場は農協が持っているものを。3%の使用料を払うのが高いて言うて。自分はそんなことないて言うたんやけど。

父親と2人で作業

父親と2人で栽培していた。就職しようか思とったんですけど、父親が明治生まれでちょっと歳いっとったもんで、機械に弱くてな。これほっておけないと思った。父親が75歳で脳溢血になって、やめて、そこまで2人でやっていた。自分が32歳の時に体壊して、しばらく休んどったんです。2年ぐらいいかな。その時は父親が管理してた。

今苦労してることは収穫。2人でしている。開拓農協の皆さんと同じように正月の5日から収穫。当時は女の子2人と家族2人。4人で収穫してるんです。今は2人。時間は4人より遅い。

作業用コースター

コースターは、あれがなかったら栽培はできん。部品は吉澤さんにもらったり、

中井（勤）さんにもらったり。やめた人の部品をもらったり。油は毎年ひく。サボっとるでサビてきとるけどな。

今年みかんを採り終える2、3日前に、ワイヤーが緩んで、機械が滑った。オイルの物質が固まって詰まる。修理しようとコイル注文したら無いって言われた。吉澤さんところにあっただけそのコイルをもらった。変え頃。終り頃。20年ぐらいで変えといたらよかったんやけどな。ロビン（コースターの会社）は無くなったけど、どっかが引き継いでるんですかね。

樹齢と年齢

昔はみかんの葉がたくさん落ちる落葉事件がありました。落葉事件が起きてから収穫量が半減。2年落ちた。枝に日焼けおこしてました。最近はもう、10年かのう。干ばつで木が傷み出して、2、3年前の干ばつでたくさん枯れました。まあ辞め頃。

今年も体力的にできるかがわからない。ひざの軟骨減ってきたもんで。今年の7月から3ヵ月ぐらい仕事休んだ。そしたら、体力がガクガクと落ちてしまって、体力というより筋力が。若い時は休んでもどうもなかったんやけど。今で78歳になる。筋力がどんどん落ちて仕事ができないようになる。今は7月に休んだ体力がやっと回復してきた。